文化財調査報告書

前橋市教育委員会

平成10年度

第 29 集

文化財調査報告書

平成10年度

前橋市教育委員会

第 29 集

序

文化財は、先人たちが歩んできた生活と歴史を今に伝え、長い歴史的経過の中で受け継がれてきた貴重な文化遺産です。現代に生きる私たちにとっては、心を豊かにしてくれる郷土愛のシンボルとも言うべき役目も果たしています。

生涯学習が叫ばれている今日、郷土の歴史や文化財に対する関心は一層の高まりをみせており、文化財の保存と活用はますます重要な役割を担いつつあります。前橋市教育委員会では、貴重な文化遺産である文化財を積極的に保護するとともに、指定文化財に対して、計画的に標柱や説明板を設置するなど活用のための支援事業にも努めております。

平成10年度は、古き生糸の町前橋を支えた江戸時代の養蚕農家の復元を中心にした大室公園内の民家園も完成しました。地元の老人会を母体とする赤城型民家保存会により、民家園の開館業務が行われ、見学者等の便に供しています。

さらに今年度は、大室公園の整備とともに進めております国指定の４古墳の内、後二子古墳の整備が完了する予定になっています。４古墳の整備が進み、東国における古墳文化の中心地前橋の躍如たる姿が見られる日も遠くありません。

最近では、豊かな環境づくりに対する関心も高まりを見せていますが、文化財の保存・整備は歴史的景観を守る上でも欠くことのできないものと考えております。その意味でも、これらの文化財を守り、後世の人々に伝えることは、現在の私たちにとって大切な使命と考えております。

本書を通して、前橋市の文化財保護行政の一端をご理解いただければ幸いです。

むすびに、平成10年度の事業を進めるに当たりご指導ご協力をいただいた関係各位、並びに諸機関に感謝申し上げます。

平成11年９月

前橋市教育委員会
教育長　早部　賢一郎

目　次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査……1
　　長昌寺文化財調査……1
　　樹木調査……3
Ⅱ　文化財調査……4
　　光巌寺所蔵灌頂用具調査（第２年次）……4
Ⅲ　新指定文化財紹介……7
Ⅳ　文化財保護事業……11
　1　保護管理運営事業……11
　2　整備事業……12
　3　普及事業……14
　4　埋蔵文化財調査事業……17
　5　大室公園史跡整備事業……29

あとがき

Ⅰ　文化財調査委員による調査

平成10年度の文化財調査は、平成10年10月６日・７日に市内紅雲町にある長昌寺で行った。当寺院所蔵の什物類と境内の石造物を調査した。調査の概要は以下のとおりである。

●長昌寺文化財調査

長昌寺調査什物目録

カード番号	種別（名称）	材　質	法　量　cm	備　考
1	地蔵菩薩立像	銅	総高74 台座高21	銘「上州勢多郡奈良氏屋 願主　常念　文化十二乙亥年四月吉日」
2	観音菩薩立像	銅	総高32	近世初頭の作。
3	香炉	鋳銅	総高23 縦15 横15	蓋の正面、龍に乗る弁財天。身三重に朧。 銘「越中国高岡住　勝順鋳」 江戸時代
4	弁財天座像	木	総高34 像高18	頭頂に宇賀神。瞼珞に鳥居。玉眼嵌入、寄木造。全体に金箔。 江戸時代中期。 墨書銘「弁財尊天　大泉常住　現住教傳」
5	三面大黒	木	総高24	伝太田道灌作。表面全体が火災を受けて炭化しもろい。江戸時代。
6	薬師如来座像	紙	縦136 横 70	着色。請来品か。江戸時代末。
7	小輪公感教之図	絹	縦113 横 49.5	着色。菊池容斎画。江戸時代。
8	出山釈迦図	紙	縦132 横 49	墨画。「なす」形の落款、中に「景」の字。 江戸時代末期（幕末）。
9	瓢箪から駒	紙	縦 88 横 26	墨画。狩野雛殿助藤原永岳画。明治初期。
10	花鳥図	絹	縦131 横 51	着色。青順遅画。近世～明治。
11	釈迦涅槃図	紙	縦115 横 85	着色。江戸時代末～明治初期。
12	阿弥陀三尊山越え図	紙	縦131 横120.5	着色。伝恵心画。江戸時代。
13	千体仏	紙	縦129 横 58	着色。中央に全高27cmの阿弥陀如来座像、その周囲に小仏画。近世中期。
14	慧可断臂図	紙	縦123 横 63	墨画。明治初期。
15	五百羅漢図	絹	縦146 横 88	着色。江戸時代。

長昌寺調査石造物一覧表

カード番号	種別（名称）	法　量　cm	備　　考
1	五輪塔	総高108	地輪正面「風岸常全禅定門」 同　側面「本城氏」（右） 「寛永十一年甲戌十月二日」（左） 空風輪は別石。
2	地蔵菩薩坐像	総高207 像高96	背面「慶安五[illegible]年五月下旬代田山房門 俗名館野□左衛門 （梵字）奉逆修彫建尊像為法名大寛院榮具 内儀妙榮菩提 導師台嶺住位比丘賢者聖順法印
3－1	十王坐像（五体）	像高41～48	
3－2	地蔵菩薩座像	像高29.5	背面「正徳六年三月二十四日 早世童児」
4	墓石	総高125	正面「妙法善明院観道日行居士」 側面「宝暦九[illegible]歳四月二十九日」（右） 「牛越宗兵衛尉胤春之墓」（左） 背面「牛越氏姓平諱胤春父諱胤澄母辻氏義安女也享保七年壬寅□一月一四日生奥州白川伊藤氏以三女為有一女為家統以辻氏次男為継子胤春卒宇東武溜池舘享年三十八葬於同所二本榎興榮山朗惺寺山中母老聞之不堪哀痛也思之墓□也至深美以遷於墓上州前橋柿宮長昌寺界内以題墓表爾 孝子　牛越三平　建立
5	墓石	総高109.5	正面「法身院智報月應居士」 側面「栗間友隆入道一歩墓」（右） 「宝暦九[illegible]歳八月十二日 孝子　栗間包敬建」（左）
6	墓石	総高220	正面「秋霖院檜外聞聲大姉」 側面「寛延二年己己八月十四日」（右） 背面「好田正庸妻堀中氏」
7－1	板碑	残存長58.5　幅26.5 厚3	阿弥陀三尊種子　約600年前
7－2	板碑	残存長32　幅20　厚3	阿弥陀三尊種子　約500年前

以上の他に、市指定史跡「本城氏の墓」五輪塔三基がある。

●樹木調査

市内にある保護・保存の対象となるような樹木についての基礎的データを整備するために調査を、平成10年10月22日・30日に実施した。調査の概要は以下のとおりである。

樹木調査結果概要一覧

No.	名称（通称）	所在地	樹高	目通し	樹齢	備考
1	井出上神社のシイ	飯土井町甲1　井出上神社	16.0m	3.6m	200～300年	県内では自生しない樹木。
2	産泰神社のヒロハスギ	下大屋町569　産泰神社	27.0m	2.6m	約200年	落雷後、根元で伐採
	産泰神社のヒイラギ（キンモクセイ）	〃	13.0m（12.0m）	1.2m（1.8m）		モクセイとヒイラギが根元で合わさっている。
3	石井家のクスノキ	元総社町2.221	27.5m	6.4m	約320年	約320年前伊勢神宮より苗をもらい移植したと言われる。
4	神明神社のイチョウ	千代田町一丁目13　神明神社	18.0m	1.8m		
5	八幡宮のイチョウ	本町二丁目1－2　八幡宮	17.5m	6.2m	伝え800年	何度か落雷を受けている。
6	飛石稲荷神社のイチョウ	昭和町三丁目29　飛石稲荷神社	24.5m	3.4m		枝が切り落とされている。
7	八坂神社のイチョウ	文京町四丁目1　八坂神社	14.0m	3.2m		
8	大徳寺のクロマツ	小相木町91　大徳寺	22.5m	3.2m	300～400年	クロマツ特有な勇壮な姿
9	春日神社のクロマツ	上佐鳥町374　春日神社	22.5m	2.9m	約100年	
	春日神社のクロマツ（裏西）	〃	25.0m	3.4m		
	春日神社のクロマツ（裏東）	〃	26.0m	2.9m		
10	春日神社のケヤキ	上佐鳥町374　春日神社	30.0m	5.0m	300～400年	
	春日神社のケヤキ（裏西）	〃	33.0m	3.8m		
	春日神社のケヤキ（裏東）	〃	22.0m	4.5m		
11	総社神社のイチョウ	元総社町2377　総社神社	21.0m	2.6m		
12	田口町のヒイラギ	田口町448　須川家墓地	12.0m	2.0m		
13	飛石稲荷のエノキ	昭和町三丁目29　飛石稲荷神社	12.0m	3.4m		

II 文化財調査

本年度は、光巌寺所蔵灌頂用具調査の第２年次として、平成10年10月15日・16日に光巌寺で、東京国立博物館金工室長原田一敏氏によって調査が進められた。

前年度の調査では、密教の大壇に配備される法具類が中心であったが、今年度は道場内の壁に掛けられる金剛界・胎蔵界の２面の種子曼荼羅、十二天、金剛薩埵像などの絵画遺品を中心に、大壇の荘厳具や文書の調査を行った。結果は以下のとおりである。

●曼荼羅・絵画等の調査

種子曼荼羅　　２幅
紙本墨画・着色
胎蔵界　縦62.5　横56.0
金剛界　縦62.5　横56.0
江戸時代　延享３年（1746）

胎蔵界、金剛界とも紙本で、種子を群青、墨で描き、間地、宝珠、羯磨文などの文様部には彩色を施す。

胎蔵界曼荼羅の幅裏軸下に墨書銘文を記す。

「灌頂道具之内胎蔵剛界種子曼荼羅
　　延享三丙寅歳四月
施主東国分村塚田五郎兵衛
　秋元山光巌寺常什物」

金剛界も同様に墨書銘文を記す。

「灌頂道具之内金剛界種子曼荼羅
　　延享三丙寅歳四月
施主東国分村塚田五郎兵衛
　秋元山光巌寺常什物」

箱書（墨書）

「灌頂道具之内　　施主東国分村塚田五良兵衛
胎金種子曼荼羅　　二幅
延享三丙寅歳四月　　秋元山光巌寺常什物」

金剛薩埵像　　１幅
紙本着色
縦112.8　横58.8
江戸時代　延享３年（1746）

やや灰色がかった肉身に、右手に五鈷杵、左手に五鈷鈴を執り、金蓮華座に坐し、頭光を負う。金剛薩埵像は金剛手菩薩ともいい、大日如来の化身で、一切衆生の浄菩提心が堅固不動であることを表しており、密教尊像としては重要視される。

幅裏軸下に墨書銘文を記す。

「金剛薩埵像一幅　秋元山灌頂道具之内
　　延享三丙寅年新調第十一世顕純代
施主江田村冨澤作左衛門」

敷曼荼羅　　１幅
紙本着色
胎蔵界　縦111.0　横109.0
金剛界　縦111.0　横112.0
江戸時代　延享３年（1746）

円相内に中央、東西南北にさらに円相を配し、これをさらに区画して蓮弁を描く。

敷曼荼羅は灌頂儀式の際、大壇の上に置かれる曼荼羅である。金胎二幅あるが、大壇が金胎二壇ある場合は、それぞれに使い分けるが、一壇構えのときは、金胎を上下逆にうちだかえて重ね敷くのが一般的である。本例は壇具の数から見て、後者と思われる。

金胎とも裏面に墨書銘文を記す。

「延享二乙丑歳十月大吉祥日
　智香院寄附」

如意　　１柄
鉄鍛製
長41.4
江戸時代　18世紀

鉄鍛製の如意で、雲形はあまり大きくない。如意はいわゆる掻の手のことで、意の如く手の届くところからこの名が付けられた。もともとは僧の日用品であったが、次第に僧の威儀を整える道具となった。

法曼像　　１幅
紙本着色
縦103.4　横39.3
江戸時代　延享３年（1746）

経机を前に、右手に経巻、左手に数珠を持ち、緑の衣に袈裟を付け、頭巾をかぶる法曼（相実和尚）を彩色で描く。頂に輪宝と蓮華を表した幡と幡緒を描く。

幅裏軸下に墨書銘文を記す。

「灌頂道具之内法曼繍像一幅
　　延享三寅年四月施主東国分村
秋元山光巌寺常什物
住屋甚五右衛門
同　幸七」

食道　　４枚
紙芯、絹布包
江戸時代　18世紀
長　上幅150.0　下幅111.5　縦20.0

紙芯で、表裏に赤と白の絹布を着せる。食堂は壇引、

水引ともいい、大壇の側面を覆う布である。あるいはこれは、鬩伽折敷で、大壇上の四側に置き、その上に六器をのせたものとも考えられる。

草座　　3枚
紙本着色
江戸時代　18世紀
その1　縦67.0　横66.0
朱・白・緑で枠をつくり、その内は白地に朱で八葉蓮弁を描く。
裏に墨書銘「三摩耶戒
阿闍梨草座」
その2　縦67.0　横66.0
白・緑・朱で枠をつくり、その内は黄土地に白で八葉蓮弁を描き、蓮肉部と八葉のうち一葉に輪宝文を表す。
裏に墨書銘「受者瑜祇蓮臺」
その3　縦70.0　横68.5
表は、朱の枠に白で輪郭をとり、青で描いた開敷と未開敷の蓮華を八個配し、その内は青地に白で八葉蓮弁、緑で蓮肉を描く。
裏は、朱の枠に青で輪郭をとり、青で描いた開敷と未開敷の蓮華を八個配し、その内は青地に朱で八葉蓮弁、緑で蓮肉を描く。
灌頂のとき、法を授ける阿闍梨とそれを受ける受者の敷物。

敷曼荼羅　　5枚
紙本着色
江戸時代　18世紀
縦48.0～50.0　横48.0～50.0
表は朱・緑・白で枠をつくり、その内は茶地に朱で蓮弁、緑で蓮肉を描き、各花弁に種子を墨書する。
裏は朱・緑・白で枠をつくり、その内は茶地に白で蓮弁、緑で蓮肉を描き、各花弁に種子を墨書する。

天蓋垂曼荼羅　　1枚
紙本着色
江戸時代　18世紀
縦147.5　横147.5
縁のみ茶絹布をめぐらす。各面中央に1個所、四隅に1個所ずつ合計8本の懸吊用の紐をつける。
黒地蓮唐草文と緑地渦文の枠をつくり、その内に青、水、黄、緑の同心円状に4重の枠を描き、さらにその内側は白地として、朱で八葉蓮弁を描き、蓮肉の中央から蓮弁にかけて四方に三鈷杵、その間に上下で半切した三鈷を金箔で表す。
灌頂儀式の際、道場の大壇の天井に吊りさげて使用した。

十二天　　12幅
紙本着色
江戸時代　延享3年（1746）
日天　縦101.0　横42.0
地天、水天、火天、風天、伊舎耶天、帝釈天、閻魔天、梵天、毘沙門天、羅刹天、日天、月天を彩色で描く。
日天の幅裏軸下に銘文を記す。
（題箋貼墨書）「日天　浣頂入用　智光院御寄附」
（墨書）「延享二乙丑天十月
大正六年夏表具替　　光巌寺常什物」

両界曼荼羅図　　2幅
紙本着色
江戸時代　延享2年（1745）
金剛界　縦111.8　横95.4
胎蔵界　縦112.0　横95.0
金胎とも紙本彩色。
裏に墨書銘（金剛界、胎蔵界とも同文）
「泰元院殿智山義勇大居士
琳證院殿一露慈観大童子
右為普提光巌寺灌頂本尊令寄附之者也
延享二乙丑年十月大吉祥日　　智香院」
桐箱墨書銘
「灌頂道具之内　　施主　東国分村　塚田五良兵衛」
胎金種子曼陀羅　二幅
延享三丙寅天四月　秋元山光巌寺常什物」

●文書の調査

1．**『金灌私記』**　　2巻
紙本巻子、上下2巻
縦31.1
奥書に「上野群馬郡惣社昌楽卅二世
享保九年甲辰四月　佛子亮幽謹識」とある。
2．**『三摩耶戒儀』**　　1巻
紙本巻子
縦31.2
灌頂の儀式の前に行われる三摩耶戒で、受者が入堂して受戒するまでの手順を書き示す。
3．**『胎灌私記』**　　2巻
紙本巻子、上下2巻
縦29.8
胎蔵界立てでの灌頂の儀式の手順、壇の位置を書き示す。
4．**『胎灌頂私記』**　　1巻
紙本巻子
縦31.1
5．**『許可私記』**　　1巻
紙本巻子
縦31.2

6．『金胎私記』　2巻
紙本巻子、上下2巻
縦29.6

7．『合行灌頂儀』　1巻
紙本巻子
縦31.2

8．『合灌私記』　2巻
紙本巻子、上下2巻
上巻　縦30.0
下巻　縦29.8
道場の荘厳や供物、その供養法、また灌頂の儀式の阿闍梨、受者の作法を書き示す。

9．『瑜祇私記』　1巻
紙本巻子
縦31.1

10．『第五秘密私記』　1巻
紙本巻子
縦31.1

11．『灌頂壇図』　1巻
紙本巻子
縦31.0
式の次第、阿闍梨が入堂してから受者が出堂するまでの場所を示す。

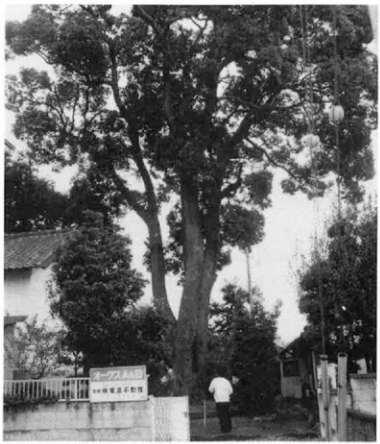
光巌寺に伝わる灌頂道具の一式。灌頂には伝法灌頂、血縁灌頂などがあるが、これらは伝法灌頂に使われたものである。伝法灌頂は、密教の最高位の僧職である阿闍梨から、弟子がその職位を継承する重要な儀式である。これらの道具には本尊のほか、金剛界、胎蔵界の曼荼羅、修法を執り行う大壇と、その上に置く敷曼荼羅、敷曼荼羅の上にのせる金剛鈴、金剛杵、一面器、羯磨、輪宝、花瓶などの法具類、さらに壁面に掛ける十二天像が堂内具としてある。さらに、阿闍梨、受者が座すための敷座や、かれらが身につける衣、冠、腕輪、如意といった僧具もあり、また儀式中に使用する明鏡、法螺、金鼓なども含まれる。このほか、灌頂儀式を執り行うための文書が附属する。

灌頂用具のほとんどは、延享2年（1745）ないし3年（1746）に整えられたことが銘文によって知られる。灌頂用具の遺品では、静岡県華永寺に鎌倉時代のもの含み、江戸時代まで順次補充された一具が最も古く、ほとんどは本例のように江戸時代のものである。しかし、これほど完存にちかく揃っている例はあまりなく、江戸時代における法曼流の灌頂儀式を知る資料として貴重である。

（調査者　東京国立博物館　金工室長　原田一敏）

Ⅲ　新指定文化財紹介

元総社町石井家のクスノキ



・区　　分　　天然記念物
・記号番号　　天第４号
・指定年月日　　平成11年４月20日
・所 在 地　　元総社町2,221
・所 有 者
・管 理 者
・概　　要

石井家の裏庭に生育し、巨通り周6.4ｍ、根周り18ｍ、樹高27.5ｍに達するクスノキである。

石井家の２代目が、江戸時代の寛文（1661～1673）のころ伊勢神宮より分与され、移植したものと伝えられる。これは約320年前のことであり、樹齢も同じと見て差し支えないだろう。現在の所有者は13代目である。

クスノキは、地上５ｍより３幹に分かれ、その上は多くの枝が分岐し、東西25.05ｍ、南北22.5ｍの枝張りがある。葉量も多く、樹勢極めて旺盛である。４～５月に新芽を出し、結実し、苗もよく育つ。

クスノキは暖地の樹木であり、前橋付近が内陸における北限と考えられる。本件はこの中でも県指定のクスノキに匹敵するものであり、保存状態・樹形・樹勢ともに良好で、本市にとって貴重な樹木である。

小相木町大徳寺のクロマツ

・区　　分　天然記念物
・記号番号　天第５号
・指定年月日　平成11年４月20日
・所 在 地　前橋市小相木町91
・所 有 者　大 徳 寺
・管 理 者　大 徳 寺
・概　　要

このクロマツは、クロマツ特有の勇壮な形態を示し、その形状は竜が立つさまとなっている。境内全体に枝・葉が広がり、目通り周3.2ｍ、高さ14.0ｍ、枝張りは東西16.5ｍ、南北23.0ｍある。地際部からあたかも２本のごとく主幹が立っているが、下は１本である。

樹幹２ｍあたりに枝折れがあり、腐朽が入っているが、かなり古いものであり、形成層も巻き込んでいるので、当面は心配ない状態である。根はかなり高い土盛りの上にあり、また、寺の境内に有るため生育条件はよい。

このクロマツは、その大きさや保存状態、樹形・樹勢とも良好であり、本市にとって貴重な樹木である。

山王廃寺跡

・区　　分　史　跡
・記 号 番 号　史第19号
・指定年月日　平成11年４月20日
・所 在 地　前橋市総社町総社2410－１・2411
・所 有 者
・管 理 者
・概　　要

山王廃寺跡は、前橋市総社町総社昌楽寺裏り一帯に所在し、白鳳期に創建された東国最古の古代寺院の一つである。ここから発見の塔心礎（心柱の土台石）は国指定史跡に、２個の石製鴟尾（主要建物屋根の棟両端を飾る）は国認定重要美術品に、根巻石（塔心柱の根本を飾ったもの）と寺域南東部から発見された銅椀・緑釉陶器（水注・椀・皿）などは国の重要文化財に指定されている。

前橋市教育委員会が実施した1974年からの７次にわたる学術調査や、1997年からの下水道工事に伴う調査では、東に塔、西に金堂、北に講堂を配置し、それらを取り巻く回廊、さらに回廊の北にある僧坊あるいは食堂と見られる建物跡や、寺のまわりを囲んだ築地跡と見られる遺構の一部などが確認され、寺域や伽藍配置（寺院建築物の配置）が明かになりつつある。また、文献資料と関連する本来の寺名と見られる「放光寺」銘のある瓦や、奈良時代前後の仏像（塑像）など極めて貴重な資料が見つかり、いよいよその評価が高まってきている。

山王廃寺跡は本市の貴重な文化遺産として、寺域全体を保存して後世に残す必要のある重要な遺跡であるが、今回の指定地984.78㎡は、調査で確認された金堂跡並びに講堂跡の一部がかかり、また東側の国指定史跡の塔跡にも接し、山王廃寺跡でも枢要な所である。

植野稲荷神社太々神楽
附　面4点・衣装3点

・区　　分　重要無形文化財
・記号番号　無第8号
・指定年月日　平成11年4月20日
・所 在 地　前橋市総社町植野1039－1他
　稲荷神社内
・所 有 者　植野稲荷神社太々神楽保存会
・管 理 者　植野稲荷神社太々神楽保存会
・概　　要

神楽の由来は定かではないが、天保8年（1837）の墨書銘のある神楽衣装や天保9年頃の神楽講中を募集する刷りものなどが稲荷神社に保存されているので、このころから神楽の奉納が始まったものと思われる。

古くは神官の奉納する素朴・単純のものであったが、元治～慶応（1864～1868）のころ、高崎市小鳩稲荷神社に伝承された大和流神楽を移入して加えたものといわれる。現在も大和舞の流れをくんだ気品高く、流麗典雅な舞が奉納される。

毎年4月1日に奉納されてきたが、昭和55年より4月第1日曜日に変更された。また、昭和15年に愛好会を、平成2年に町内200戸余りによる保存会を結成し、神楽の伝承に努力している。

座数は以下の17座で、古事記などに登場する神々の物語を中心に演じられる。

本神楽は江戸時代までさかのぼることが確実な神楽であり、大和舞の流れをくむ気品と流麗典雅さを今に伝える貴重な郷土芸能である。また、天保8年（1837）の墨書銘があるものを含む衣装3点や、彫師の銘（「國久」「大久保村　金田久七」）のある面4点を今に伝えるが、これらはいずれも江戸時代末期の奉納当初ごろのものとみられるものである。なお、面の内2点は三番叟の白色尉・黒色尉に通じるもので、かつての神楽奉納のようすを知る上で貴重である。

1　大麻（おおぬさ）
2　榊（さかき）の舞
3　三舞（さんまい）
4　猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）・剣持（つるぎもち）
5　伊左那岐命（いざなぎのみこと）・伊左那美命（いざなみのみこと）
6　天児屋命（あめのこやねのみこと）
7　天太玉命（あめのふとだまのみこと）・天照大神（あまてらすおおかみ）・天宇受目命（あめのうずめのみこと）・手力男命（たじからおのみこと）
8　保食大神（うけもちのおおかみ）・一ツ狐（ひとつぎつね）
9　鍛冶命（かなちのみこと）・天目一箇命（あめのまひとつのみこと）
10　誉田別命（ほんだわけのみこと）
11　二ツ狐（ふたつぎつね）・道返大神（みちかえしのおおかみ）
12　瓊瓊岐命（ににぎのみこと）・磐長姫命（いわながひめのみこと）・経津主命（ふつぬしのみこと）
13　日本武命（やまとたけるのみこと）
14　蛭子命（ひるこのみこと）・岡持（おかもち）
15　八幡大神（はちまんおおかみ）
16　稲田姫命（いなだひめのみこと）・手名槌命（てなづちのみこと）・八俣大蛇（やまたのおろち）・素盞雄命（すさのおのみこと）
17　大国主命（おおくにぬしのみこと）

Ⅳ　文化財保護事業

1．保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成10年度において、次のような事業を実施した。

（1）　国有文化財の管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の田中勝さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施した。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施した。

（2）　国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが40件、市指定のものが112件あり合計173件の指定文化財がある。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの文化財を訪ねる人々の利便をはかっている。

なお、区分については下記のとおりである。

①　指定区分別文化財（11．4．20現在）

区分 / 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	34	5	0	0	1	0	40
市指定	73	18	5	8	8	0	112
合　計	110	34	6	8	9	6	173

②　時代区分別文化財（11．4．20現在）

指定別（件数）/ 時代別	国指定	県指定	市指定	合計 件数	合計 割合%
天　然	1	0	5	6	3.5
原　始	1	0	0	1	0.6
古　代	15	3	17	35	20.2
中　世	2	18	33	53	30.6
近　世	2	15	40	57	32.9
近　代	0	3	1	4	2.3
民　俗	0	1	16	17	9.9
合　計	21	40	112	173	100

（3）　史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し、史跡が美しく保たれるように作業を実施した。

実施箇所は、下記の表の通りである。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2.484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2.407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3.000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400㎡
5	酒井家歴代墓地	市指定史跡	紅雲町2-8-15	3.800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15.081㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町2659 他	11.068㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五料1501	16.000㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀2616-1 他	12.283㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社1587-2	1.793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2.204㎡
13	女　堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・飯土井町	22.290㎡
13	不二山古墳	市指定史跡	文京町3-151-6	562㎡
14	荒砥富士山古墳	県指定史跡	西大室町813他	1.270㎡
計				89.281㎡

荒砥富士山古墳での除草の様子

（4）　文化財パトロール

市内を6地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告してもらい、管理していく上での情報を伝えてもらった。そのため、緊急事態に対処することができた。

各地区の文化財保護指導員は、表の通りである。

地　区	氏　名	住　所	電　話
中　央	福島　守次	天川大島町	
総社・清里	関口　淳七	総社町総社	
東・元総社	中島　孝雄	石倉町	
上川淵・下川淵	関根　辰男	山王町	
南橋・芳賀・桂萱	栗原　秀雄	荒牧町	
城　南	森村伊勢雄	富田町	

文化財保護指導員会議のようす

（5）　松食虫、アメリカシロヒトリ防除事業

前橋市の管理する史跡地内の松の木に発生する松食虫の駆除を行うために、農政課に協力し防除薬剤散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生するアメリカシロヒトリなどの害虫防除を行って、史跡の環境保全を図った。

<松食虫の防除>

八幡山古墳：大室公園

［1回目］6月2日(火)　［2回目］6月16日(火)

2．整備事業

（1）　歴史散歩道整備事業

平成10年度は、案内・休憩施設としての総社資料館の開館に伴う管理・運営を中心として、屋根、看板の修理等を実施した。

城南歴史散歩道計画については、女堀の公有地化と大室史跡公園の進捗状況を勘案しながら、引き続き文化財資源などの基礎調査等を進めている。

①　総社資料館の管理・運営

今年度は、施設の修繕等を中心に整備が図られた。大正時代に建てられた北蔵では雨漏りの修繕が、西倉では、雨樋の修繕が行われた。

また、資料館敷地内で立ち枯れていた杉木も処理し、来館者の安全に配慮した。

秋元歴史まつりに際しては、山王廃寺関係の出土遺物を展示した特別展観が開催された。今年度の開館日数は251日で、約5,200人の来館見学者があった。

<アメリカシロヒトリ防除>

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・前二子古墳・中二子古墳・天川二子山古墳

［1回目］6月9日(火)　［2回目］8月6日(木)

（6）　前橋市蚕糸記念館の管理・運営

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横羽目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財になった。翌年、蚕糸記念館として公開され養蚕・製糸の道具が展示されている。

本年度は、第4展示室にある「機織り機」の糸がほぐれ乱れていたので修理した。

開館日数は107日で、入館者は9,780名あった。

前橋市蚕糸記念館

総社資料館　北蔵外観

西　倉

② 「第９回秋元歴史まつり」への協力

今年度は、総社資料館で山王廃寺跡の出土遺物の特別展を開催した。展示された遺物は、平成９年度の調査で出土したものが中心で、瓦や釘、塑材、羅漢像、須弥山の頂上部、イノシシの頭部等多岐にわたった。その他の出土遺物についても写真パネルで紹介され、たくさんの見学者で賑わった。

（２） 総社二子山古墳修復工事

平成10年度は、平成６年度から10年度までの国指定史跡二子山古墳修復工事の最終年次に当たり、前方部石室周辺斜面の崩落防止工事と括れ部及び後円部の盛土、植栽工事を実施した。

また、安全確保のため、破損・老朽化の進んだ後円部石室周辺に設置してあるネット・フェンスを撤去し、新しいネット・フェンスを設置した。

（３） 文化財標柱・説明板・案内板等設置工事

平成10年度は、次にあげる指定文化財・史跡の標柱・説明板の立て替え、新設を実施した。昨年度に続き、標柱には御影石、説明板にはステンレス材を使用し、耐久性を高めるよう工夫するとともに、屋内に保管されていたり、閉鎖された古墳の石室など実際に目にすることのできないものや目にしにくいものなどについては、説明板に写真を挿入するなどして文化財の普及に配慮した。さらに、すべての説明板に文化財愛護作品コンクールの標語の部で優秀賞以上のものを取り付け、これを通して文化財に愛着を持ってもらうようにした。

※ 標柱の立て替え・新設　　３基

① 市指定重要文化財「徳蔵寺の懸仏」
市指定重要文化財「麻本著色両界曼荼羅一対」
（元総社町　徳蔵寺）

② 市指定史跡「王山古墳」（大渡町一丁目）

③ 県指定史跡「荒砥富士山古墳」（西大室町）

※ 説明板の立て替え・新設　　５基

① 市指定重要文化財「徳蔵寺の懸仏」
市指定重要文化財「麻本著色両界曼荼羅一対」
（元総社町　徳蔵寺）

② 市指定重要文化財「小島田の阿弥陀如来坐像」
（小島田町）

③ 県指定史跡「荒砥富士山古墳」（西大室町）

④ 市指定重要文化財「大徳寺総門」
（小相木町　大徳寺）

⑤ 市指定重要文化財「松平藩主画像」
市指定重要文化財「結城政勝画像」
（朝日町四丁目　孝顕寺）

（４） 史跡境界杭の設置

平成10年度は、国指定史跡女堀の公有地化に伴い、女堀「富田地区」の史跡境界を復元し、杭を設置した。

総社二子山古墳修復工事

立て替えた標柱

新設した説明板

設置した境界杭（女堀）

3．普及事業

（1） 第24回前橋市文化財展

・期　日　平成10年11月11日(水)～23日(月)
・会　場　前橋市中央公民館　1階ロビー
・テーマ　「酒井・松平時代の前橋」
－前橋城の変遷と城下町－

前橋市の郡市形成の基礎がつくられたのは、藩主酒井氏・松平氏の治世下にあると考えられている。前橋城は関東の４名城の一つとして数えられる大変立派な城であった。このような歴史を持つ前橋をより深く理解してもらうために、前橋城の変遷と城下町に焦点を当てて文化財展を開催した。

ここでは、幾多の変遷を辿った前橋城の絵図や城下町の様子を表した町絵図、藩主画像、前橋城址から発掘された遺物を中心に展示・紹介した。

開催期間中は、約1,000名の人たちが見学に訪れた。

（2） 文化財愛護ポスターの作成

児童生徒の文化財に対する愛護の気持ちを培うために文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。今年度は、ポスター作成の年として、昨年度実施した第８回文化財愛護作品コンクール標語の部市長賞（書上茉弓・桂東小４年）と絵画の部市長賞（寺澤愛・箱田中３年）となった作品を組み合わせて、文化財愛護ポスターを作成した。

（3） 第26回前橋市郷土芸能大会

・日　時　平成10年11月14日(土)
午後１時～４時45分
・場　所　前橋市民文化会館　小ホール

市内に伝わる郷土芸能を保護・育成するとともに広く市民に公開し市民文化の向上を図ることを目的に、本大会を開催してきた。昨年の25周年記念大会が好評だったことを継続して、今年度も前橋広域市町村圏規模での大会とした。

公演は、市内の５団体に加え、広域圏４町村の４保存団体に出演を願い、合計９件の郷土芸能を公開した。多くの観衆に、どの公演も熱演で応えた。また、出演者同士で情報交換をし、広域圏における郷土芸能の交流が図られ、充実した芸能大会となった。約700人の来場者には、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。

○公演および出演団体

「二之宮の式三番叟」／二之宮町無形文化財保存会（前橋市二之宮町）
「江田の獅子舞」／同保存会（前橋市江田町）
「引田の安来節」／引田日の出会（勢多郡富士見村）
「大胡神社太々神楽」／足軽町太々神楽保存会（勢多郡大胡町）
「青柳の祇園」／青柳町郷土芸能保存会（前橋市青柳町）
「込皆戸操り人形式三番叟」／込皆戸式三番叟保存会（勢多郡粕川村）
「大前田諏訪神社獅子舞」／同保存会（勢多郡富城村）
「駒形町太々神楽」／同保存会（前橋市駒形町）
「前橋幕木遣り・纏振り」／前橋幕伝統文化保存会「華粋会」（前橋市城東町）

（4） 文化財めぐりパンフレットの作成

これまで市内を６コースに分けた文化財めぐりパンフレットを希望する市民の皆さんに無償で配付してきた。今年度は、Ｂ４判のパンフレットをＡ３判に改め、「旧沼田街道沿い」「広瀬・朝倉」のパンフレットを作成した。

パンフレットの判を大きくしたとともに、新たに指定された文化財の解説も追加した。また、標語も昨年度のコンクールの優秀作品に替えた。

（5） 石井刀剣等コレクション展

岩神町の市総合教育プラザ３階教育資料館企画展示室で、平成10年６月22日～７月20日の間、刀剣展を開催した。本展では、昨年10月23日逝去された石井昌重氏が長年にわたって、収集した貴重な刀剣等をご遺族の方々が前橋市に寄贈され、これらを展示した。

ここでは、鎌倉時代から現代に至る太刀・薙刀・刀・槍・脇差・短刀・刀装具として太刀拵や脇差拵、鍔、縁頭、こうがい・小柄・そして鎧・陣笠等45件80点と石井氏の足跡を紹介した。

入場者は1,568人あった。

（6） 第17回文化財普及講座

本年度は、第24回文化財展の内容に関連させて、酒井氏・松平氏の治政のもとで、前橋がどのような繁栄をし、また、どんな停滞期があったのかを知るために、「江戸時代の前橋」をメインテーマにして、講座を開催した。

各回とも、現代社会が抱える問題点に触れながら、当時の様子を浮き彫りにする内容だったので、歴史に学ぶ楽しさが味わえるものとなった。開催した講座名と講師の方は次の通りである。

期日	演題	講師
11/7（土）	前橋の基礎を築いた酒井氏	中島 明氏 経済学博士
11/21（土）	江戸時代に咲いた前橋祇園祭	井田 安雄氏 県文化財保護審議委員
11/28（土）	松平氏の治政と前橋の盛衰	阿久津宗二氏 前橋市文化財調査委員

（7） 史跡・文化財めぐり

本年度は、46団体2,000名以上の史跡・文化財めぐりの依頼があった。小学生の社会科見学や老人会・自治会主催の史跡めぐり（天狗岩用水、総社資料館、大室古墳群、旧関根家住宅など）で、前橋のすばらしさを理解していただいた。

（8） 各種講座への講師派遣

地区公民館が主催する「生涯学習」などの文化財講座や地域の歴史愛好者及び団体による研究会などに講師として依頼され、文化財への理解を深めるなど普及活動に努めた。

（9） 文化財消防査察

昭和24年１月26日に奈良県法隆寺の金堂壁画が焼失したことをきっかけに、毎年実施されている文化財防火デーは、今年で第45回になる。

今回も前橋市消防本部と協力して消防演習や指定文化財所在地の立入検査を行った。

（立入検査） １月25日（月）

前橋市蚕糸記念館、妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、臨江閣本館・茶室・別館、市立図書館、孝顕寺、円満寺、駒形神社、旧関根家住宅、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、慈照院、上野総社神社、光巌寺、徳蔵寺、大徳寺、日輪寺、上泉郷蔵、小河原武吉氏宅

（消防演習） １月26日（火） 場所：善勝寺

(10) 文化財教材の開発事業

学校教育や社会教育の場で活用されることを目的として、歴史・文化財スライドを作成してきたが、より多くの活用を図ってもらうために、今年度からビデオを作成することにした。今年度は「総社資料館の案内」を主題として、周辺にある文化財も紹介する内容のものを作成した。

(11) 文化財資料の貸出

文化財資料の貸出は、１年間で34件、総点数175点になった。

主な実物資料の貸出は次の通りである。

貸出資料	貸出先
人面付円筒埴輪	かみつけの里博物館
縄文土器	群馬県立歴史博物館
奈良三彩小壺	五島美術館
石見型盾形埴輪等	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
細石器刃	岩宿文化資料館

(12) 増補「前橋市の文化財」の作成

前橋に存在する文化財をわかりやすく解説し、カラー写真で紹介した「前橋の文化財」が刊行されてから、10年が経過した。この間に、指定された文化財31件及び登録文化財４件が追加されたため、これらを含めて前橋にある指定文化財169件及び登録文化財４件を市民に紹介し、理解してもらうために増補版を刊行した。

本書によって、身近にある文化財への理解が深まり、より多くの要望に応えられるようになった。

(13) 文化財保存団体への助成

それぞれの地区に残る文化財の説明板や標柱の設置、郷土芸能の継承など、文化財の保護・保存のために活動している次の団体に、補助金の助成をした。

- 総社地区史跡愛好会
- 荒砥史談会
- 前橋市郷土芸能連絡協議会
- 二之宮町自治会（式三番叟衣装新調）

(14) 県指定重要文化財　旧アメリカン・ボード宣教師館移転工事

平成６年に共愛学園中・高等学校のキャンパスが岩神町から共愛学園女子短期大学の隣接地の小屋原町への移転が決定した。これに伴い、旧アメリカン・ボード宣教師館の移転工事が、平成10年度から12年度の３カ年事業として県の文化財保存事業に採択され、県・市及び文化財保護振興財団の補助金を得て実施された。

平成10年度については、解体工事を中心に、解体された部材や家具等の選別・保管と移転先の基礎工事が行われた。

(15) 郷土芸能映像記録保存

本年度の郷土芸能映像記録保存は、前橋市指定重要無形文化財である「総社神社太々神楽」の記録保存を行った。平成10年12月６日（日）に総社神社神楽保存会（代表：赤石　進氏）の手により総社神社神楽殿で神楽舞が奉納され、その様子が収録された。

「奉幣の舞」「翁の舞」「柄杓水上の舞（巫女の舞）」「大蛇退治の舞」など、道具の使い方や演技の方法、しぐさ、間合いなどまで細かに記録された。

この映像・音声はレーザーディスクに収められた。郷土芸能の正確な継承に役立てる資料として有効活用されることとなる。

４．埋蔵文化財調査事業

本年度の調査をふりかえって

本課の２係の一つ、埋蔵文化財係の業務の中で一番の比重を占めているのが埋蔵文化財の調査である。調査には表面調査、試掘調査、発掘調査などかあるが、場合によっては建設工事等の施工時に行う立会調査も行われる。平成10年度はこれらの調査を、合わせて80件行った。

調査原因は北関東自動車道側道調査、区画整理事業など公共・民間の開発に伴うものであった。

試掘調査については平成３年度から国・県の補助金を得て公費で行っている。表面調査により可能性が高い場所について実施した。本年度は、34件の埋蔵文化財確認調査依頼が提出されたため、市内遺跡事業として確認調査を実施した。前橋市は、地形区分の上では、「前橋・高崎台地」、「広瀬川低地帯」、「赤城山南麓斜面」におおまかに分かれるが、以前は遺跡が発見される確率が低いとされていた「広瀬川低地帯」からも、近年住居跡などが確認されているため、市内全域にわたり確認調査を実施した。

周知の遺跡を含めて９カ所で遺跡が確認されたが、現状保存が困難なために、本年度中に５カ所で記録保存のための発掘調査が行われるなど、現状保存が難しくなっている。

大室公園造成地内では、公園の施設造成部分の発掘調査を行い、とくにさくら草の湿原に伴う調査では大きな成果を得た。この地区は五料沼からの浸水があり、住居跡に水中ポンプを入れて１軒づつ１～２日で精査する早急な調査となった。それでも、住居跡16軒、掘立柱建物跡２軒、土坑31基、ピット54基を検出した。なかでもＨ－12号住居跡は10メートル四方と類のない県内最大級の大規模住居跡で平成10年７月10日の上毛新聞にも掲載された。その後、公園緑地課との協議により設計変更後保存となった。発掘調査について市民のみなさんに知っていただくことが目的の現地説明会も考えたが水没により断念した次第である。

その他、土地改良事業に伴う鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では、約12,000～15,000年前の旧石器時代の遺物350数点が検出された。このことにより芳賀地区の歴史はこれまで考えられていたよりも、一気に約6,000年以上前に遡ることになった。県内でも出土事例が少ない彫器、掻器、礫器、細石核、細石刃等が検出され貴重な資料を得ることができた。さらに、この現場では中学生職場体験学習を行い、市立春日中学校第２学年生徒６名が訪れた。各人とも学習に臨む上での目標を設定してきており、遺跡への興味・関心とあいまって意欲が感じ取れた。発掘担当係員・作業員との対面、見学を交えたオリエンテーションを経て、実地の発掘に従事してもらった。調査自体は終盤に近づいていたが、幸い残存良好な住居跡等のプランが手につかず残っており、実際の発掘手順に沿った体験をしてもらうことができた。男女ともに意欲的に作業に取り組み、遺物が出るたびに嬉々として移植ごてを持つ手に力が入る女子、自主的に相談しあいながら掘り続ける男子等、休憩時の作業員との交流の中でも次々と質問が浴びせられた。各人とも額に汗する中で、勤労の厳しさ、楽しさを味わうことができたようである。

以上のように、前橋の古代史を塗り替えるような発見、埋蔵文化財の分布状況の把握など、今年度も貴重な資料を収集することができた。また、年々講師の依頼が増えてきている大室公園見学会、前橋市に寄贈された刀剣を中心とした春の石井昌重コレクション展、酒井・松平氏時代の前橋をテーマとした秋の文化財展等を通して、市民の皆さんに対する埋蔵文化財の普及活動も、十分行うことができた。これらを今後の文化財保護行政に役立てていきたい。

平成10年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺跡名	所在地	調査面積㎡	調査原因	調査期間
1	10E－11	内堀遺跡群Ⅺ	西大室町2517他	4,920	公園整備	平成10.4.23～10.12.9
2	10H－28	六供東京安寺遺跡	六供町673－1他	7,400	土地区画整理	平成10.4.27～10.10.9
3	10C－18	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	鳥取町613－1他	5,727	土地改良	平成10.7.9～10.12.10
4	10A－85	大友宅地添遺跡	大友町1－12－10他	2,353	老人福祉センター	平成10.6.15～10.10.15
5	10E－43	大室小学校校庭Ⅲ遺跡	西大室町上諏訪2811－1	400	墓地造成	平成10.11.12～10.12.2
6	10A－88	箱田川西遺跡	箱田町1590－1他	750	道路改良	平成10.11.12～10.12.2
7	10G－29	中内村前Ⅱ遺跡	中内町297－1他	3,360	道路改良	平成10.4.21～11.3.25
8	10G－30	前田Ⅳ遺跡	東善町242－1他	2,398	道路改良	平成10.4.21～11.3.25
9	10G－26	徳丸高堰Ⅱ遺跡	徳丸町68－1他	1,218	道路改良	平成10.4.23～11.3.19
10	10G－27	徳丸仲田Ⅲ遺跡	徳丸町75－1他	3,402	道路改良	平成10.4.23～11.3.19
11	10G－28	西善尺司Ⅲ遺跡	西善町1166他	370	道路改良	平成10.4.23～11.3.19
12	10F－4	下増田常木Ⅱ遺跡	下増田町1541－1他	614	道路改良	平成10.4.23～11.3.19
13	10F－5	下増田越渡Ⅳ遺跡	上増田町1535他	2,449	道路改良	平成10.4.23～11.3.19
14	10G－31	西田Ⅲ遺跡	鶴光路町322－1他	2,095	道路改良	平成10.11.5～11.3.19
15	10G－32	西田Ⅳ遺跡	鶴光路町384－1他	1,300	道路改築	平成10.12.15～11.2.19
16	10A－83	下新田中沖Ⅱ遺跡	下新田町262他	1,485	民間宅地	平成10.4.6～10.5.15
17	10A－84	川曲毘沙門前遺跡	川曲町536他	2,630	特養老人ホーム	平成10.4.17～10.5.27
18	10D－13	上泉太郎三前遺跡	上泉町1472－1	280	マンション建築	平成10.9.7～10.9.30
19	10G－33	橳島川端Ⅱ遺跡	橳島町161－5他	300	事務所建築	平成10.12.21～11.1.16
20	10H－31	六供下堂木Ⅴ遺跡	六供町663－1他	2,550	店舗改築	平成11.1.28～11.3.26
21	10A－87	山王廃寺等Ⅱ遺跡	総社町総社2796－2他	410	下水道築造	平成10.5.29～10.10.16
22	10A－89	山王廃寺等Ⅲ遺跡	総社町総社2437他	520.6	下水道築造	平成10.10.27～11.2.12
23	10A－90	宝塔山古墳遺跡	総社町総社1606他	85.2	下水道築造	平成10.10.15～10.11.5
24	10A－91	宝塔山古墳Ⅱ遺跡	総社町総社1579－2他	356.0	下水道築造	平成10.11.5～11.3.5

平成10年度　試掘調査一覧表

番号	調　査　他	開発面積㎡	調　査　原　因	調査年月日	調査結果	備　考
1	鳥羽町字金尾678	2,238	社員寮建築	10.4.8	有	民間　非補助金　発掘調査（鳥羽金尾遺跡）
2	東大室町94	1,886	店舗建築	10.4.22	無	民間　非補助金
3	六供町663－1外	3,600	店舗建築	10.5.22	有	民間　発掘調査（六供下堂木Ⅴ遺跡）
4	稲荷新田町字村北327－1、2	1,009	宅地造成	10.6.18	無	民間
5	荻窪町地内	90,000	最終処分場整備	10.7.29	無	荻窪地区整備推進室
6	上泉町1472－1	1,226.64	マンション建築	10.8.12	有	民間　発掘調査（上泉太郎三前遺跡）
7	東善町127番1、129番2	2,344.41	ドライブイン建築	10.8.12	無	民間
8	青梨子町1168番	410	消防団車庫・詰所建設	10.8.18	無	消防本部　総務課
9	総社町総社2720番地	976	診療所建築	10.8.18	無	民間
10	二之宮町1437－1他	3,600	事務所他建築	10.8.19	無	民間
11	青梨子町地内	12,045	配水池築造	10.9.17～18	無	水道局　工務課
12	池端町338番1	397.15	移動電話基地局建築	10.9.21	無	民間
13	青梨子町地内	250	道路改良	10.9.21	無	土木課
14	総社町総社2628－1	2,662	診療所建築	10.9.30	無	民間
15	六供町506－1外	5,300	店舗建築	10.10.14	有	民間　発掘調査（六供下堂木Ⅴ遺跡）
16	箱田町345－1他	3,000	道路改良工事	10.10.20	無	街路課
17	五代町地内	383,000	工業団地造成	10.11.4～6	有	前橋工業団地造成組合　保存協議中
18	西大室町字上諏訪2811番1	1,012	墓地造成	10.11.30	有	管財課　発掘調査（大室小学校校庭Ⅲ遺跡）
19	日吉町二丁目17－10	14,500	総合福祉会館建築	10.12.4	無	社会福祉課
20	下新田町615－2他	1,144	分譲住宅建築	10.12.4	無	民間
21	箱田町669	410.57	アパート建築	10.12.8	無	民間
22	二之宮町字宮下東1039－1	2,267	事務所建築	11.1.12	無	民間
23	堤町地内	549,000	住宅団地造成	11.1.26	有	前橋工業団地造成組合　保存協議中
24	元総社町848－7、9	584	診療所建築	11.2.2	無	民間
25	古市町1丁目43番地36	856	アパート建築	11.2.2	無	民間
26	荒子町字舞台218番1他	2,694	宅地造成	11.2.5	無	民間
27	鶴光路町111－2	400.03	鉄塔建設	11.2.5	無	民間
28	元総社町字草作1300－1	2,435	宅地造成	11.2.16	有	民間
29	箱田町字三丁免1036番1他	2,998	宅地造成	11.2.16	無	民間
30	朝倉町四丁目9番1、2、5	1,673.86	土地整備	11.2.18	有	管財課　保存
31	国領町1丁目11番9、40	2021.17	マンション建築	11.3.4	無	民間
32	上新田町5－1他	960	店舗建築	11.3.4	無	民間
33	東上野町136	2,500	福祉施設建築	11.3.9	無	民間
34	六供町733－3他	3,030	区画整理事業	11.3.9	無	区画整理第一課

平成10年度　表面調査一覧表

番号	調　査　地	開発面積㎡	調　査　原　因	調査年月日	調査結果	備　考
1	総社町総社2411	700	宅地造成	10.4.15	有	民間
2	元総社町字弥勒1231番地外	3,298	宅地造成	10.7.10	無	民間
3	上細井町1456、1457	169	鉄塔建設	10.10.15	無	民間
4	二之宮町1438、1439	6,709	事務所他建築	11.2.5	無	民間
5	下大島町203	980	老人ホーム建設	11.3.23	無	民間
6	荻窪町963－1	398	店舗兼住宅建設	11.3.23	無	民間

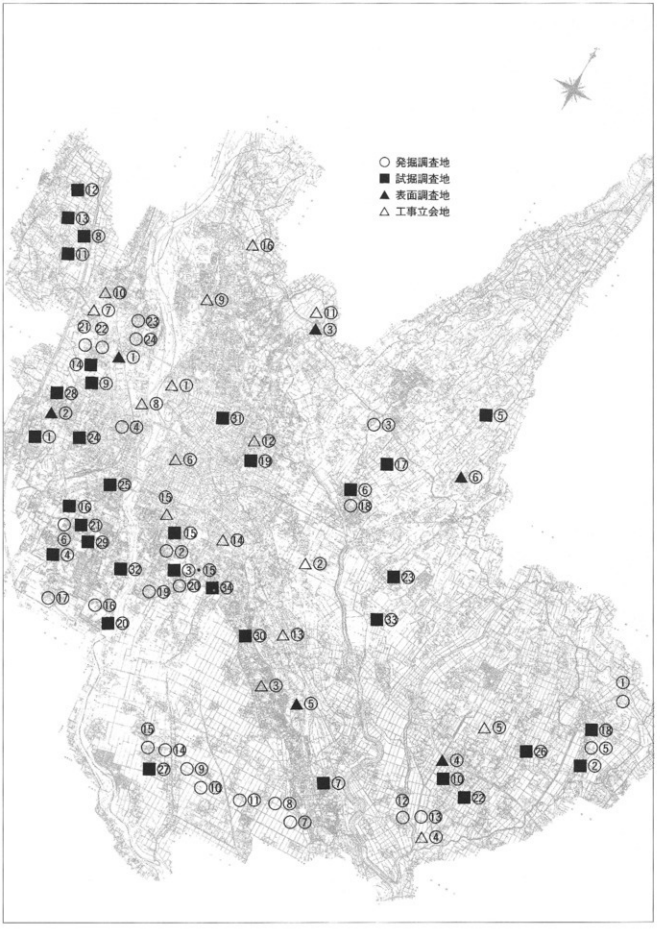
平成10年度　工事立会調査一覧表

番号	調　査　地	開発面積㎡	調　査　原　因	調査年月日	調　査　結　果
1	岩神町三丁目30－19	1,200	マンション建設	10.4.7	遺構・遺物検出されず
2	東片貝町地内	100	道路改良	10.5.13	遺構・遺物検出されず
3	広瀬町三丁目6－24他	4,000	団地建設	10.4.23·30、5.26	住居跡検出
4	二之宮町2242	80	個人住宅建設	10.6.4	遺構・遺物検出されず
5	二之宮町地内	60	配水管布設	10.8.27·29	遺構・遺物検出されず
6	大手町5	1	電柱支線撤去	10.8.31	遺構・遺物検出されず
7	総社町高井地内	36	鉄塔建替	10.9.17	遺構・遺物検出されず
8	大渡町一丁目18－2	200	事務所建設	10.10.19·26	遺構・遺物検出されず
9	荒牧町字荻林北174－1、6	50	事務所建設	10.10.26	遺構・遺物検出されず
10	総社町高井地内	0.5	電柱建柱	10.11.20	遺構・遺物検出されず
11	上細井町字五反田1456他	100	鉄塔建設	11.1.6	遺構・遺物検出されず
12	日吉町四丁目33－10他	5,656	団地建設	11.1.6	遺構・遺物検出されず
13	天川大島町1285	3,500	道路改良	11.1.25	遺構・遺物検出されず
14	文京町地内	30	水道管埋設	11.1.26～29	堀跡検出
15	南町一丁目13－2	81	耐水性貯水槽設置	11.2.9	遺構・遺物検出されず
16	関根町151	100	携帯電話用鉄塔建設	11.3.24	遺構・遺物検出されず

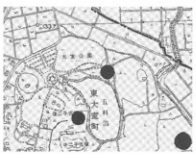
平成10年度　報告書一覧表

番号	報　告　書　名	遺　跡　名	発　行　者	発行年月日	備　考
1	内堀遺跡群Ⅺ	内堀遺跡群Ⅺ	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.26	本年度調査
2	六供東京安寺遺跡	六供東京安寺遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.25	本年度調査
3	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.26	本年度調査
4	大友宅地添遺跡	大友宅地添遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.25	委託
5	大室小校庭Ⅲ遺跡	大室小校庭Ⅲ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.24	委託
6	箱田川西遺跡	箱田川西遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.19	委託
7	中内村前Ⅱ遺跡・前田Ⅳ遺跡	中内村前遺跡・前田Ⅳ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.25	本年度調査
8	徳丸高堰Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・西善尺司Ⅲ遺跡 下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅳ遺跡	徳丸高堰Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・西善尺司Ⅲ遺跡 下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅳ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.19	委託
9	西田Ⅲ遺跡	西田Ⅲ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.19	委託
10	西田Ⅳ遺跡	西田Ⅳ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.24	委託
11	下新田中沖Ⅱ遺跡	下新田中沖Ⅱ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H10.7.10	委託
12	川曲毘沙門前遺跡	川曲毘沙門前遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.26	本年度調査
13	上泉太郎三前遺跡	上泉太郎三前遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H10.12.15	委託
14	橳島川端Ⅱ遺跡	橳島川端Ⅱ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.31	委託
15	六供下堂木Ⅴ遺跡	六供下堂木Ⅴ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	H11.3.25	委託

調 査 地 等 位 置 図



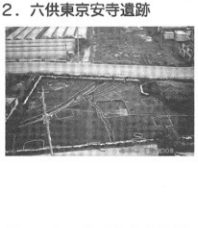
1．内堀遺跡群XI



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地　前橋市西大室町2517他
調査期間　平成10年４月23日～12月９日
担当者　佐藤則和・安立　聡
調査面積　4,920㎡
調査の経緯　公園整備事業に先立ち、公園予定地の埋蔵文化財を調査し、公園設計の基礎資料と記録保存を目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、本年度で12年目になる。
立地　前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北は粕川村、東は赤堀町が隣接する。周辺には大室３二子古墳をはじめ、上縄引遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。
内堀遺跡　後二子古墳の東に位置し、公園内のお祭り広場予定地である。古墳時代前期住居跡１軒、古墳時代中期住居跡１軒、時期不明の住居跡４軒の計６軒が検出された。遺物は土師器の甕、高坏などが出土している。
下縄引Ⅱ遺跡　五料沼の北に位置し、公園内のさくら草の湿原予定地である。古墳時代中期住居跡４軒、古墳時代後期住居跡６軒、時期不明の住居跡６軒の計16軒が検出された。このうち、H－12号住居跡は一辺が10.2ｍを測る県内においても大型の住居跡であった。この住居跡は東に竈を持ち、南には貯蔵穴を伴う張り出した出入口を備えていた。住居内には間仕切り溝があり、区割りされていたと考えられる。出土遺物では坏、高坏、小甕等多数出土しており、中でも臼玉が160点、ガラス小玉７点、管玉１点が特筆される。また、住居内には柱や敷物と思われる炭化物が多数点在しており、焼失したものと思われる。規模、出土遺物からこの住居跡は内堀遺跡群内においても特別な存在であった可能性が強い。なお、この住居跡の南東にも一辺８ｍの大型住居跡H－６が存在する。
梅木遺跡　公園予定地内の東に位置し、公園管理事務所及び付替道路である。本調査区の南東より居館跡が検出されているが、本調査区は東を流れる桂川の氾濫により遺構の検出はなかった。

2．六供東京安寺遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

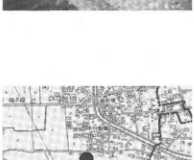
事業名　道路整備工事（区画整理事業）
所在地　前橋市六供町673－１他
調査期間　平成10年４月27日～10月９日
担当者　吉田龍二・高山　剛
調査面積　7,400㎡
調査の経緯　平成７年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、本年度で４年目を迎えた。
立地　前橋市街地から南へ約３kmの前橋台地東方、利根川左岸の標高約95～96ｍのほぼ平坦な土地に立地する。周囲には水田、畑が点在する中、主要な幹線道路が縦横に走り、各種公共施設や多くの住宅が建ち並ぶ。
縄文時代　中期から後期にかけての土器片や石鏃が出土したが、遺構は検出されなかった。
古墳時代前期　石田川式土器が出土した竪穴住居跡９軒、溝跡４条、井戸１基等を検出した。年代は４世紀中葉から４世紀末と考えられる。
奈良・平安時代　竈が設置された住居跡２軒、雑舎と考えられる掘立柱建物２軒、土坑３基、溝跡９条等を検出した。住居跡から「大」と書かれた刻書土器、溝跡から「太」と書かれた墨書土器と「安根」と書かれた刻書土器が出土した。年代は８世紀末から10世紀前半と考えられる。
その他には浅間Bテフラ層（天仁元年：1108年降下）直下の平安時代後期水田跡29枚が検出された。坪境畦畔は確認されなかったが、その走向性や区画性などから条里制水田跡の可能性が考えられる。

3．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　鳥取土地改良事業
所在地　前橋市鳥取町613－1他
調査期間　平成10年7月9日～12月10日
担当者　林　信也・福田貴之
調査面積　5,727㎡
調査の経緯　平成9年3月26日付で鳥取土地改良事業共同施行より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。平成9年度から調査は始まり、本年は最終年である。
立地　前橋市街地から北東へ約4.5㎞に位置し、赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に属する傾斜地上にある。周辺は、台地部を中心に遺跡の濃密分布地域で、芳賀北部団地遺跡、西部工業団地遺跡、東部工業団地遺跡が指呼の間にあり、縄文、古墳時代の遺構が多数検出された。また、奈良三彩小壺を出土した権率遺跡、中近世の嶺城跡なども含んで、古くから人々の生活の舞台となってきた地域である。
旧石器時代　舌状台地の末端にあたるローム層から約12,000～15,000年前の石器が検出され、この地域の歴史を一気に約6000年も遡らせることとなった。検出された器種は彫器、掻器、細石核、細石刃と多岐にわたり、旧石器文化を知るうえで貴重な資料となった。石材は硬質頁岩が主であり、他地域から持ち込まれたものとみられる。
縄文時代　住居跡8軒と土坑2基を検出した。このうち土坑1基からは堀之内Ⅱ式の注口土器が出土した。
弥生時代　なし。
古墳時代　住居跡11軒を検出した。4世紀中頃の住居からは、祭祀行為をうかがわせる剝形滑石製模造品1点と小型坩と高坏が出土している。住居のほとんどが東に竈を有するが、北に竈を有する住居からは秋間産のハソウが出土している。また、Hr－Fpにまって被災した住居からは、3点の甕が竈にかけられた状態で検出された。
奈良・平安時代　住居跡30軒と掘立柱建物跡9棟を検出した。住居跡からは「万」、「上」、「高」の異体字とみられる墨書土器が検出されている。複数の住居跡からは床面の拡張や造り替えの痕跡が認められた。律令国家の戸籍により、人々が土地に縛られていたことを傍証しているのかもしれない。また、工房跡と見られる遺構が検出され、昨年度検出された精錬鍛冶遺構とともに、当地で製鉄の操業が行われたことを示している。

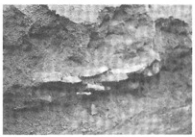
4．川曲毘沙門前遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　民間開発（特別養護老人ホーム建設）
所在地　前橋市川曲町536他
調査期間　平成10年4月17日～5月27日
担当者　林　信也・福田貴之
調査面積　2,630㎡
調査の経緯　事業者の依頼に基づき、平成9年12月11日に試掘調査を行ったところ、平安時代の水田跡が確認された。そこで、開発に先立つ記録保存のための発掘調査を前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施することとなった。
立地　前橋市街地の南西約4㎞に位置し、約24,000年前の浅間山の爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層から成る前橋台地上に立地する。
　周辺には、日高遺跡・勝呂遺跡・箱田境遺跡・前箱田遺跡・西鼻遺跡・柳橋遺跡・稲荷遺跡など、浅間B軽石（As－B：1108年降下）層下から水田跡が検出された遺跡が数多く認められる。これらの中には条里制の坪を形成する大畦畔が確認されたものもあり、当時、本遺跡周辺に広く条里制に基づく水田耕作が展開されていたことをうかがわせる。
調査の概要　現耕作土を25～65㎝掘り下げた層厚平均約8㎝の浅間B軽石直下に平安時代の水田耕作遺構面が検出され、最終的には、東西9本、南北5本の畦畔とそれらから構成される16枚の水田面及び土坑2基が確認された。畦畔構造は下幅45～73㎝、上幅18～46㎝、水田面からの比高2～8㎝、正方位に対して0～7°、水口は2箇所で検出された。水田面のうち、四方を畦畔に囲まれた完全な一区画を成すものは1面にとどまった。土坑1基からは半載された石が出土した。また土器片数点が収集されたが、その多くは後世の流れ込みによるものと見られる。
　本発掘調査では、調査範囲が遺物部分に限られていたこともあり、条里水田の指標となる大畦畔の検出には至らなかった。しかし、各水田面を区画する畦畔はほぼ東西・南北に走行し、互いに直交する規則性を維持している。水田の形状もすべて東西に長辺をもつ長方形であるなどの条里制に起因する一定の規則性をもつこと、周辺遺跡の発掘条里交点に照らした坪境・条里区割を想定できることなど、その形状や周辺地域の現況から、半折型の傾向をもつ条里水田である可能性が高いといえる。

5．山王廃寺等Ⅱ・Ⅲ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　下水道築造工事
所 在 地　前橋市総社町総社2798－２他（Ⅱ）、2437他（Ⅲ）
調査期間　平成10年５月29日～10月16日（Ⅱ）、平成10年10月27日～11年２月12日（Ⅲ）
担 当 者　坂口好孝・古屋秀登・宮内　毅・眞塩明男
調査面積　410㎡（Ⅱ）・520.6㎡（Ⅲ）
調査の経緯　平成９年度からの上記事業が継続して行われることとなり、前橋市教育委員会が記録保存のため工事掘削と並行して立会調査を実施した。
立地　本遺跡は、推定上野国府の北にあたり、周辺には総社古墳群、国分寺、国分尼寺、総社神社、蒼海城跡、総社城跡が存在し、古墳時代から中近世に及ぶ政治・文化の中心地域であったことがうかがえる。
調査の概要　下水道築造工事の掘削を受ける部分のみの調査となった。山王廃寺等Ⅱ遺跡では平成９年度調査結果の推定寺域付近から瓦や土器を含んだ掘込み状遺構を検出した。出土した瓦は創建期を中心として少し新しい時期の物が混ざり、土器は７世紀中～９世紀後半のものである。また、掘込みの直上にAs－Ｂが堆積していたことから、1108年までこの掘り込みは存在していたことがわかった。時代的には山王廃寺の存続期間に該当しており、山王廃寺に直接関係する遺構と考えられる。今回検出された掘込み部分は東南コーナーと考えられ、遺構はそのまま北に延びていた。また、掘り込み上面が固く締まることから、溝や堀として使用した後、道路として使用していた可能性が考えられる。推定回廊の東南コーナー付近でも幅６ｍほどの掘込み状遺構と瓦を検出した。

山王廃寺等Ⅲ遺跡では推定回廊の北東コーナー付近で、３次調査の際に発見された礎石群Ａや礎石群Ｂにつながると思われる土坑、落ち込みを検出した。埋土断面や配置間隔から柱穴と雨落ち溝と考えられる。また、塔心礎から南へ27.2ｍ地点で回廊跡と想定される版築状遺構と柱穴を検出した。

寺域の北側に位置する地点で井戸跡と瓦を含んだ層を検出した。井戸跡からは大型の石が検出された。この地点は１・４・５次調査で確認された掘立柱遺構群の北側にあたるが掘立柱遺構群に関係するのか、それとは別の建物が存在したのかは不明である。

限られたなかでの調査であったが、貴重な資料が得られた。

6．宝塔山古墳・宝塔山古墳Ⅱ

遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事 業 名　下水道築造工事
所 在 地　前橋市総社町総社1606他1579－２他（Ⅱ）
調査期間　平成10年10月15日～11月５日、平成10年11月５日～11年３月５日（Ⅱ）
担 当 者　坂口好孝・古屋秀登・宮内　毅・眞塩明男
調査面積　85.2㎡、356.0㎡（Ⅱ）
調査の経緯　平成10年10月15日、宝塔山古墳の南側に隣接する道路で下水道築造工事を行っているとの連絡を受ける。急遽調査依頼を提出してもらい前橋市教育委員会が記録保存のため立会調査を行った。Ⅱは平成10年10月20日に調査依頼を受け、同様に立会調査を実施した。
立地　前橋市街地の北西約３㎞、榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端の前橋台地の辺縁に位置する。本遺跡は、上野国府推定地の北東にあたり、周辺には山王廃寺跡や総社古墳群、総社城跡が存在し、旧総社城主・秋元家の菩提寺である光巌寺が隣接する。古墳時代から中世・近世に及ぶ政治・文化の中心地域であったことがうかがえる。現在古墳の墳丘裾部は高さ約２ｍの垂直な石垣になっている。
調査の概要　事業が下水管埋設なので掘削を受ける部分の調査となった。すでに工事が終了している部分についてはすでに埋め戻されていたため、調査ができなかった。

石室下の石垣から３ｍ外側の地点で地山を掘り込んでいる周堀を検出した。また、周堀の埋土の中に葺石が含まれていた。

この結果から周堀の跡が石垣からやや離れて認められるので、構築時には裾がさらに外側まであったと思われる。

宝塔山古墳Ⅱでは墳丘裾の石垣から約20ｍの幅で周堀が確認され、最深1.7ｍを測った。周堀は外側からなだらかに落ち込み、墳丘側の立ち上がりは、急角度であることがわかった。墳丘南西コーナー付近と墳丘北側で根石と思われる石組みを数地点で検出した。

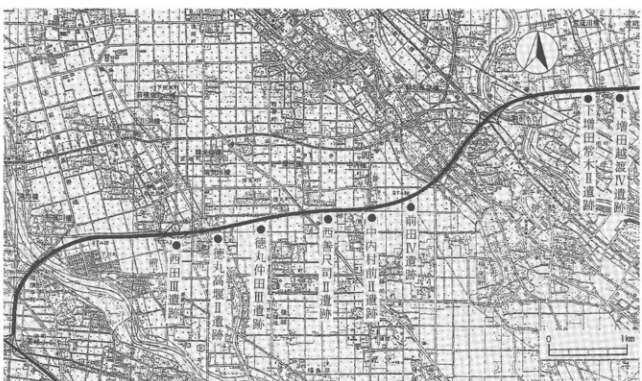
宝塔山古墳はかつて光巌寺域内にあり、光巌寺建立時や秋元家の墓地造成の際に周堀を埋め、墳丘裾を削り取ったと思われる。

特に墳丘に近い部分の周堀の埋土には、多めの葺石が含まれていた。

7．北関東自動車道（側道）関連発掘調査

調査に至る経緯

北関東自動車道建設に伴った埋蔵文化財発掘調査は、平成７年度より群馬県埋蔵文化財調査事業団が本線部分の調査を開始し現在も調査継続中である。本市教育委員会では本市北関東自動車道対策室と協議・調整を重ね、平成９年度より隣接する側道部分の発掘調査を実施し、本年度で２ケ年目を迎える。発掘調査については、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、調査団とその立ち会い指導のもとに、調査委託受託者の山武考古学研究所が加わり二者によって行われた。



遺跡位置図（国土地理院　前橋）

遺跡名	所在地	調査面積㎡	検出遺構
西田Ⅲ遺跡	観光路町322－１他	2,095	古墳時代～近世
徳丸高堰Ⅱ遺跡	徳丸町68－１他	1,218	古墳時代～中世
徳丸仲田Ⅲ遺跡	徳丸町75－１他	3,402	古墳時代～平安時代
西善尺司Ⅲ遺跡	西善町1166他	370	古墳時代～中世
中内村前Ⅱ遺跡	中内町297－１他	3,360	古墳時代～近世
前田Ⅳ遺跡	東善町242－１他	2,398	古墳時代～中世
下増田常木Ⅱ遺跡	下増田町1541－１他	614	古墳時代～近世
下増田越渡Ⅳ遺跡	上増田町1535他	2,449	古墳時代～中世

西田Ⅲ遺跡

西田Ⅲ遺跡

調査期間　平成10年11月５日～平成11年３月19日

調査面積　2,095㎡

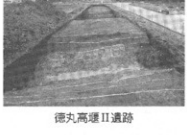
立地　本遺跡は市役所・県庁などの所在する中心地より南へ約７㎞で、東方約150ｍには端気川が流れ、南は前橋南ＩＣ予定地と隣接している。

中世　灰白色粘質土と黒色土の混土を取り去った面で掘立柱建物跡２棟（１間×３間）、溝状遺構３条、土坑１基を検出した。遺構からの出土遺物はなかったが、周辺より土師器、須恵器片が出土しており、時代決定の一助となった。

近世　圃場整備や耕作による削平がAs－Ｂ下水田面に大きく影響を及ぼしたとみられ、明確な畦畔等の遺構は検出できなかったが、近世とみられる旧河道を４条検出した。遺物は土師器片や近世陶磁器片などが出土した。

徳丸高堰Ⅱ・仲田Ⅲ遺跡

（端気川～藤川）



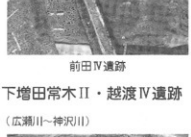
徳丸高堰Ⅱ遺跡

仲田Ⅲ遺跡

西善尺司Ⅲ・中内村前Ⅱ・前田Ⅳ遺跡

（藤川～広瀬川）

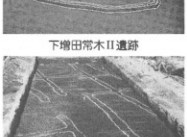
中内村前Ⅱ遺跡



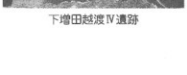
前田Ⅳ遺跡

下増田常木Ⅱ・越渡Ⅳ遺跡

（広瀬川～神沢川）



下増田常木Ⅱ遺跡



下増田越渡Ⅳ遺跡

調査期間　平成10年４月23日～平成11年３月19日

調査面積　合計4,620㎡

立地　両遺跡は前橋の中心市街地より南東約７㎞で、両毛線駒形駅の南西約2.9㎞の所にある。西方を端気川に東方を藤川により挟まれ、微高地と後背湿地が交互に入り組む地形に位置している。

徳丸高堰Ⅱ遺跡　端気川東縁に存在し、弥生時代以前の溝状遺構、古墳時代水田面、平安時代水田面、中世館跡を検出した。

弥生時代以前の面ではAs－C混土層下層より掘り込まれシルト層を貫く溝３条、土坑２基、ピット20基を検出した。遺物の出土はほとんどなかった。古墳時代水田面では、明確な畦畔の検出はできなかったが、溝やピットを確認した。As－B下水田面では東西・南北方向それぞれ１条ずつの畦畔を検出し、陶磁器片の出土もあった。中世館跡では館を巡る堀が南北２条検出され、五輪塔（火輪）が堀内より出土した。

徳丸仲田Ⅲ遺跡　端気川から藤川間の大部分を占めるのが本遺跡で、主な遺跡構成は弥生時代以前、As－Cの混土水田、As－B下水田である。

弥生時代以前の遺構面では、県事業団により近辺で縄文時代草創期の遺物が確認されているが、残念ながら溝、ピットの検出に留まった。As－C混土水田面では上面と下面を調査し、遺構検出を期待したが畦畔数本と溝のみの検出であった。一方As－B下水田面では、残存状態が良好で東西畦畔は少ないが、南北畦畔は多数検出され、水口の検出も良好なところでは数カ所あった。

調査期間　平成10年４月21日～平成11年３月25日

調査面積　合計6,128㎡

立地　各遺跡は前橋の中心市街地より南東約８㎞、両毛線駒形駅の南西約２㎞にあり、西方を藤川に、東方を広瀬川低地帯に挟まれた前橋台地南東に位置する。地形は微高地と後背湿地が互いに入り組み、小谷には水田、微高地には集落が形成される。

西善尺司Ⅲ遺跡　検出遺構は、弥生時代以前で数条の溝を検出。古墳時代ではAs－C混土下水田の耕土を検出したが畦畔等の遺構は不明であった。平安時代から中世にかけては、As－B下水田で溝・堀・土坑等を検出し、東西方向に走る環濠の堀と見られる溝を検出した。

中内村前Ⅱ遺跡　調査区域西端の微高地では近世と見られる土坑墓群を確認し、六道銭が出土した。主要地方道藤岡・大胡線西付近では比較的As－B下水田が良好に残存しており、東西・南北両方向の畦畔が多数検出された。また、藤岡・大胡線の東からは米軍焼夷弾の金属片も検出した。

前田Ⅳ遺跡　前橋台地の東端に位置する本遺跡からは中世環濠堀に関連する遺構が多数検出された。大部分は本線部分に存在するが、規模20ｍ×20ｍの屋敷後の堀コーナー部及び200基を超えるピット群など周辺地域の中世期資料として有益なものとなった。さらに、調査区西の小谷を越えた区域では平安時代の住居跡20軒を検出し、遺物は土師器、須恵器を中心に多数出土している。

調査期間　平成10年４月21日～平成11年３月25日

調査面積　合計3,063㎡

立地　前橋の中心市街地より南東約９㎞、両毛線駒形駅の東約1.5㎞にあり、荒砥川、宮川などの河川が流れる広瀬川低地帯の東端に位置する。東には新井大田関遺跡が存在し、神沢川を越えると伊勢崎市に入る。

下増田常木Ⅱ遺跡　荒砥川西岸に位置する。平安時代遺構では弘仁九年（818年）の地震に起因するとみられる洪水層で覆われた水田跡を確認し、残存良好な畦畔を数本検出した。また、近世遺構では土坑２基と溝状遺構６条を検出した他、遺物等の出土はなかった。調査区の大部分が谷地部で洪水層の流れ込みがひどく他の遺構検出できなかった。

下増田越渡Ⅳ遺跡　荒砥川と萩原遺跡の存在する舌状台地との間にある低地に位置し、主な検出水田遺構はAs－C混土下水田跡、洪水層下水田跡、As－B水田跡が確認され、荒砥川東岸付近では方形周溝墓のコーナー部も確認された。洪水層下水田跡については凹型の疑似畦畔で区画を確認できたが、宮川以東では層の広がりが見られなかった。また、荒砥川より導水し、以南へと水を引いたと見られる幅６～８ｍ、深さ２ｍの大溝を検出し、大溝南側でも、９ｃ後半とみられる平安時代集落跡を確認した。

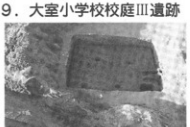
8．大友宅地添遺跡

遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　老人福祉センター建設
所在地　前橋市大友町一丁目12番地の10他
調査期間　平成10年６月15日～10月15日
担当者　眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　2,353㎡
調査の経緯　平成９年６月に埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、同年11月に確認調査を実施したところ平安時代の水田跡が確認された。協議の結果、建物建設部分を対象とした発掘調査を実施することになった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。
立地　本地域は前橋市街地の西方約２kmに位置し榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端の前橋台地上に立地する。

本遺跡は上野国府推定地の東約500ｍに位置し、周辺では多くの遺跡が確認されている。
調査の概要　調査の結果、古墳時代の遺構として、４世紀の浅間山噴火にともなう浅間Ｃ軽石（As－Ｃ）堆積面下から溝４条、土坑２基、耕作跡12列を検出した。耕作跡には半月状の掘り込み跡が残っており、鍬の刃先と思われる道具の使用が認められた。平安時代の遺構として、天仁元年（1108）の浅間山噴火にともなう浅間Ｂ軽石（As－Ｂ）に覆われた水田跡20面、溝跡10条、土坑24基を検出した。全体的に北西から南東方向への勾配が見られる水田で、水田面や畦畔は区画されており、畦畔の規模や方向に規則性が見られた。

9．大室小学校校庭Ⅲ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　墓地造成工事
所在地　前橋市西大室町字上諏訪2811－１
調査期間　平成10年11月12日～12月２日
担当者　眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・新保一美（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　400㎡
調査の経緯　平成10年11月に埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、確認調査を実施したところ古墳時代の住居跡が確認された。現状保存のために協議を行ったが、現状保存が困難なことから、記録保存のため発掘調査を実施することになった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。
立地　本地域は前橋市の東端赤城南麓斜面に位置する。本遺跡は、舌状台地の南西端にあたり、東に隣接する大室小学校内には古墳時代の集落跡が確認されている大室小学校校庭Ⅰ・Ⅱ遺跡、大室小学校農場遺跡がある。また、北には３二子古墳を含む内堀遺跡群が存在し、市内でも有数の遺跡地区である。
調査の概要　調査の結果、縄文前期と思われる住居跡１軒と古墳時代の住居跡２軒を検出した。縄文時代住居跡の遺物は、縄文前期の諸磯ｂ式を主体として関山Ⅱ式等も出土した。古墳時代住居跡からは竈や貯蔵穴周辺から鬼高式土器を出土している。

今回確認された２軒の古墳時代住居跡は隣接する大室小学校校内の３遺跡で確認されている住居跡と同じ集落跡と推定できる。

10．箱田川西遺跡

遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　道路改良工事
所在地　前橋市箱田町1590－１番地他
調査期間　平成10年11月12日～12月２日
担当者　眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　750㎡
調査の経緯　平成９年１月に埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、確認調査を実施したところ平安時代の水田跡が確認された。協議の結果、水田跡が確認された場所で発掘調査を実施することとなった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。
立地　本地域は前橋市街地の南西約５kmに位置し、榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端の前橋台地上に立地している。周辺の同時期水田遺跡として、五反田遺跡、村前遺跡、稲荷遺跡等がある。また、北方約１kmでは箱田古市前遺跡のような古墳～平安時代の集落跡も確認されている。
調査の概要　調査の結果、古墳時代の遺構として、４世紀の浅間山噴火にともなう浅間Ｃ軽石（As－Ｃ）層下から溝状遺構４条、性格不明の楕円状小穴を検出した。

平安時代の遺構として、表土より15～20㎝で天仁元年（1108）の浅間山噴火にともなう浅間Ｂ軽石（As－Ｂ）層に覆われた水田跡を部分的に検出した。部分的な検出となったため水田区画等は不明である。全体的に攪乱範囲が広く、攪乱を免れた部分にＣ軽石やＢ軽石の堆積層が残り、その下からの遺構検出であった。

11. 西田Ⅳ遺跡

遺跡位置図（前橋市境形図2万分の1）

事業名　道路改築工事
所在地　前橋市鶴光路町384－1他
調査期間　平成10年12月15日～11年2月19日
担当者　眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　1,300㎡
調査の経緯　平成7年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が実施した西田遺跡調査時に未移転の住宅があり、今回住宅移転に伴い発掘調査を実施した。平成10年11月に前橋土木事務所から埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、発掘調査を実施した。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。
立地　西田Ⅳ遺跡は、前橋市街地から南へ約7㎞に位置する。本遺跡の南方1.5㎞には利根川が北西から南東に流れている。遺跡地周辺では、現在北関東自動車道建設や計画道路建設に伴う発掘調査が大々的に行われている。主に水田跡が検出されているが、住居跡や環濠屋敷跡が確認される場合もある。
調査の概要　調査の結果、表土より50～80㎝下で天仁元年（1108）の浅間山噴火に伴う浅間B軽石（As－B）層が5～10㎝ほどの厚さで堆積しており、その直下より浅間B軽石層に覆われた平安時代の水田跡が検出された。東西方向8本、南北方向3本、水田区画13面が検出された。水田面の状況は、北から南へ向かって勾配がみられ、凹凸が少なく平坦であり、各水田区画は畦畔によって5㎝程の高低差が見られた。

12. 下新田中沖Ⅱ遺跡

遺跡位置図（前橋市境形図2万分の1）

事業名　民間開発（宅地造成）
所在地　前橋市下新田町262番地他
調査期間　平成10年4月6日～5月15日
担当者　古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・神津芳夫（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　1,485㎡
調査の経緯　宅地造成工事に先立ち、平成10年2月24日に確認調査を実施したところ、平安時代の水田跡が検出された。事業者と協議を行った結果、開発予定地の道路部分の発掘調査を実施することが決定した。
立地　下新田中沖Ⅱ遺跡は前橋市街地から南に約3.5㎞の下新田町に所在する。本遺跡の東方約500ｍには利根川が南流し、西方約700ｍには滝川が南流している。またこの滝川から分流された殿田用水がすぐ北を東流している。本遺跡が立地する前橋台地は、古代から水田が営まれていた地域であり、周辺には同時期の水田跡として、下新田中沖遺跡、地蔵前遺跡、稲荷遺跡等がある。
縄文時代～古墳時代　なし。
奈良・平安時代　調査の結果、1108年の浅間山噴火に伴う軽石（As－B）層に覆われた平安時代の水田跡22面、畦畔24本を検出した。調査区が狭小なため、水田の形状や規模の判別、測定は難しかった。
　なお調査区中央部より検出された南北の畦畔は幅員が広く、その規模から大畦畔と考えられる。この畦畔を北に延長すると、本遺跡の北約54ｍにある下新田中沖遺跡で検出の大畦畔部分に連結する。
　水田耕作土は黒褐色粘質土が厚さ5㎝程度あり、水稲栽培に適した土壌であった。

13. 上泉太郎三前遺跡

遺跡位置図（前橋市境形図2万分の1）

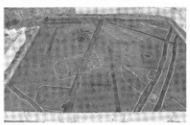
事業名　民間開発（マンション建設）
所在地　前橋市上泉町1472－1
調査期間　平成10年9月7日～9月30日
担当者　古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・新保一美（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　280㎡
調査の経緯　マンション建設工事に先立ち、平成10年8月12日に確認調査を実施したところ、縄文時代の住居跡が検出された。事業者と協議を行った結果、建物建設予定地部分の発掘調査を実施することになった。
立地　上泉太郎三前遺跡は上毛電鉄赤坂駅の北西約300ｍの赤城山麓南斜面上に位置し、東西を谷にはさまれた舌状台地上にある。本遺跡の南西150ｍには古墳時代の住居等を検出した桑原遺跡が、また北方1.6㎞に奈良三彩を出土した桂峰遺跡、北西約2㎞には端気遺跡群・小神明遺跡群・芳賀西部団地遺跡等が存在する。
縄文時代　住居跡5軒が検出されたが、明確な炉跡は検出されなかった。出土遺物の大半は縄文時代前期終末に当たる諸磯ｂ式期からｃ式期にかけてに該当するものと考えられる。波状突起に獣面をかたどった鉢の波状突起部や黒曜石塊160ｇも出土した。
平安時代　住居跡2軒を検出したが攪乱が多く明確な形状の確認はできなかった。遺物は高台埦・埦・羽釜等が出土した。

14. 櫛島川端Ⅱ遺跡

遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　民間開発（事務所建設）
所在地　前橋市櫛島町161－5、9、12
調査期間　平成10年12月21日～平成11年1月16日
担当者　古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・新保一美（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　300㎡
調査の経緯　平成7年2月22日、開発に先立ち確認調査を実施したところ、古墳時代の住居跡が検出された。平成10年12月、当該地に事務所を建設するとの連絡があり、事業者と協議を行った結果、建物建設予定地部分の発掘調査を実施することになった。
立地　櫛島川端Ⅱ遺跡は、前橋駅の南方2.7kmの前橋・高崎台地上に位置する。隣接地には弥生時代から中世にかけての住居跡・水田跡等を検出した櫛島川端遺跡があるほか周辺には古墳時代以降の住居跡や水田跡等を検出した公田東遺跡、平安時代の水田跡を検出した中大門遺跡等がある。
古墳時代　住居跡5軒、土坑1基を検出した。調査区内の立木を処理したため攪乱が多く、明確な住居の形状は確認できなかった。遺物は石田川式土器片・手捏ね土器・須恵器等が出土した。
平安時代　溝3条を検出した。

15. 六供下堂木Ⅴ遺跡

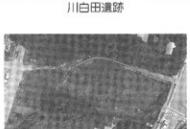


遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名　民間開発（店舗建設）
所在地　前橋市六供町663－1他
調査期間　平成11年1月28日～3月26日
担当者　古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　2,550㎡
調査の経緯　平成10年5月22日、開発に先立ち確認調査を実施したところ、平安時代の水田跡が検出された。また、開発箇所の増加に伴い10月14日に確認調査を実施したところ平安時代の住居跡が検出された。事業者との協議の結果、建物建設予定地部分の発掘調査を実施することになった。
立地　六供下堂木Ⅴ遺跡は、前橋駅の南1.3kmの前橋・高崎台地上に位置する。隣接地には古墳～平安時代住居跡・水田跡等を検出した六供下堂下・Ⅱ・Ⅲ遺跡等がある。
調査の概要　調査区は東西2箇所に区分されそれぞれ異なった遺構を検出した。
西側調査区　扇平した駐車で区画された平安時代の水田跡19面、水口11箇所、人の足跡を検出した。駐車は曲線的に作られ、北西から南東方向への勾配に沿っている。他に溝6条、土坑1基も検出した。北西側の微高地部分から土師器片や須恵器片を検出している。
東側調査区　竈を東側に持つ住居跡3軒、溝9条を検出した。遺物は奈良・平安時代のものが大半であるため同時代の住居跡と思われる。土師器坏、須恵器坏が検出されている。また、溝からは古墳時代の土師器高坏や須恵器高台皿なども検出されている。

16. 県調査会調査

川白田遺跡



大友町西通線遺跡

事業名　県調査会調査
調査の概要
調査会調査は、前橋市内の国・県の開発事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査について、県教委と前橋市教委が調査会を設立し、発掘調査を行うものである。発掘調査実施は調査機関に委託して行っている。
事務手続きの一部と、遺物の管理は市教育委員会で担当し、発掘調査実施は調査機関に委託して行っている。

警察宿舎遺跡
開発予定地　前橋市公田町308番地
開発面積　2,290㎡
調査面積　920㎡
使用目的　警察官待機宿舎建設用地
調査期間　平成10年4月3日～5月28日
検出遺構　平安時代の浅間B軽石下水田跡と中世の館跡である。また、他には時期不明遺構として土坑1基・溝2条・掘立柱建物跡2棟・ピット等が検出されている。

川白田遺跡　平成7年度発掘調査の資料の整理委託。調査報告書刊行。

県立しろがね学園遺跡
平成8年度発掘調査の資料の整理委託。

大友町西通線遺跡
開発予定地　前橋市総社町高井2235－1、2番地
調査面積　2,000㎡
調査期間　平成10年7月1日～9月30日

17. 遺跡台帳整備事業

市内小学校における資料展示

事業名　遺跡台帳整備事業
期　間　平成10年4月1日～平成11年3月31日
担当者　山口宗男（前橋市教育委員会文化財保護課）

整理の経緯と概要

遺跡台帳整理事業では、年間を通じて各種確認調査及び発掘調査の資料を元にして遺跡台帳を作成している。また、その資料を元にして、各種開発への問い合わせに対応している。

更に、市内で出土した重要遺物については、市役所本庁舎1階のショーケースに随時展示している。

また、市内小学校に出土遺物の貸し出しも行っている。

ほかに、埋蔵文化財発掘調査の成果をパンフレットにまとめ、市民に配布している。10年度発行分は9年度発掘調査の概要を中心に発行した。

遺跡測量委託では、10年度は山王廃寺跡遺跡の測量を実施した。この資料は11年度以降の研究調査を実施していく際に基礎資料として活用を図る予定である。

遺跡台帳整備事業の一環として整理作業（接合、復元、実測、トレース、図面作成等）を進めている。

5．大室公園史跡整備事業

（1） 大室公園史跡整備委員会

今年度も、大室公園史跡整備事業の推進に当たり、その万全を期するために学識経験者及び関係職員で組織された史跡整備委員会を中心に、整備計画及び整備内容の検討を十分に行った上で事業の実施を図ってきた。

また、詳しい内容については別記したが、委員会開催と共に、その下でより専門的、実務的な事業を担当する３つの専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）についても、事業内容に応じて、それぞれ１～３回開催し、具体的事業内容の検討に当たってきた。

○平成10年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平10．9．16…文化庁への平成10年度事業経過報告
11．2．4…文化庁への平成11年度事業計画説明
2．24…国立歴史民俗博物館　白石太一郎氏への平成10年度事業経過説明
2．26…平成10年度大室公園史跡整備委員会開催（通算12回目）

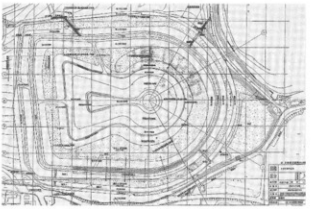
大室公園史跡整備委員会の様子

（2） 古墳整備部会

国指定史跡大室４古墳の整備に関しては、後二子古墳を皮切りとして、昨年度より国庫補助事業として整備工事に着手した。今年度は、引き続き後二子古墳整備（平成９年度～11年度の３年計画）の２年目工事を実施すると共に、中二子古墳整備（平成10年度～12年度の３年計画）の初年度事業として実施設計の作成を行った。

また、中二子古墳の実施設計作成に関わり、未調査のため、情報量がやや希薄な、石室が存在すると想定される部分について、奈良国立文化財研究所測量研究室長　西村　康氏のご厚意により、氏の調査研究の一環として組み込んでいただく形でレーダー探査を実施した。

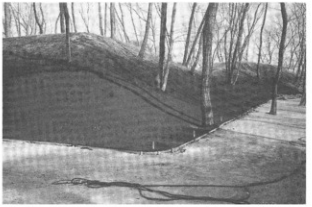
○中二子古墳整備実施設計（一部抜粋）



中二子古墳整備実施設計（平面図）

○後二子古墳整備事業（３年計画の２年次）

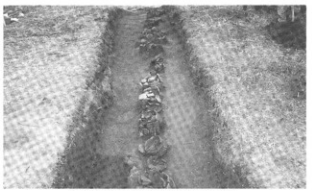
・古墳北域の樹木間伐（下段墳丘及び周堀外縁部分）
・表土すき取り（上段墳丘下半からテラス部にかけて、及び前方部下段墳丘）
・遺構保護盛土（上段墳丘下半からテラス部にかけて、及び前方部下段墳丘）
・吹付植栽（上段墳丘下半及び前方部下段墳丘）
・バーク舗装（テラス部）



後二子古墳整備工事

○平成10年度古墳整備部会の経緯

平10．8．18…平成10年度第１回部会開催
12．15…〃　第２回部会開催
平11．1．26…〃　第３回部会開催
2．10…奈良国立文化財研究所測量調査室長　西村　康氏に依頼して中二子古墳石室位置確認のためのレーダー探査を実施
3．8～12…中二子古墳整備に向けての補足調査として現存する中堤南西隅の埴輪列調査を実施



中二子古墳中堤埴輪列出土状況

（3） 民家変遷部会

平成７年度より９年度までの３年計画で進められ、既に施設の大部分が完成している赤城型民家園については、天候不順による乾燥不足のため今年度へ繰越しとなった土蔵の外壁仕上げ工事を実施した。

また、古代住居エリアにおいては、今年度より平成12年度までの３年計画で古代住居３棟の建設に着手した。市内の児童生徒に呼びかけ、古代住居建設作業への参加者を募り、文化財保護課職員指導の下、古墳時代の人々の生活の様子を理解する体験学習の一環として、今年度は竪穴式住居を完成させた。引続き11年度に高床式建物、12年度に平地式住居（掘立柱建物）を建設していく予定である。

さらに、民家園の運営については、昨年度よりその維持・管理を地元老人会を母体とした赤城型民家保存会に委託し、文化財保護課指導の下、完成した施設より順次公開を行ってきたが、土蔵工事を最後に、全ての施設が完成した今年度より本格的な民家園施設の一般公開を開始した。

○民家園整備工事経過

平10.４.１～５.20…土蔵外壁仕上げ繰り越し工事

○民家園管理

大室公園赤城型民家保存会に赤城型民家園施設全体の管理業務を委託し、一般公開を開始

［民家園公開日時］

４月～11月　９：00～16：00　月曜休園

12月～３月　９：00～16：00　土、日、祝日開園

※平成10年度来館者数　5,328名

○竪穴式住居建設体験学習事業経過

※平成９年度秋より柱材、竹材等部材準備開始

平10.６.15…体験学習参加者募集開始

７.11…体験学習参加者現地説明会

（参加者数153名）

８.６…建設体験学習開始（～８.10までの５日間）

・１日目　床面掘り下げ作業

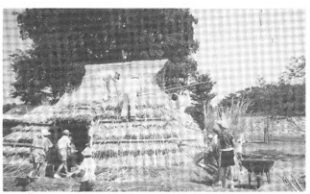
・２日目　柱組み作業

・３日目　屋根の下地つくり

・４日目　茅葺き作業（１日目）

・５日目　茅葺き作業（２日目）完成

平11.３.１…竪穴式住居説明板設置



竪穴式住居建設体験学習の様子

○平成10年度民家変遷部会の経緯

平10.６.30…平成10年度部会開催

（最終部会　※平成３年度開催の第１回部会より通算24回目）

（4） 資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、これまでに展示に関する基本設計の作成まで終了しているが、今年度は、大室公園史跡整備事業事務局を中心に、今後予定されている展示実施設計、及び資料館家屋の基本設計に向けての準備作業を実施した。

さらに、大室４古墳発掘調査、及び大室公園整備地内の施設建設に先行する発掘調査（内堀遺跡群発掘調査）等によって得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への収蔵を予定し、昨年度より開始した整理作業を継続した。

○平成10年度資料館部会の経過

平11.１.29…平成10年度部会開催

あ と が き

地方の時代といわれていますが、文化財保護の仕事は、まさに地方の歴史、地域の足跡を辿る地道な活動の集積ともいうべきものです。学校教育においては、子どもたちが「自分さがしの旅」を行うことに対し支援することだと言われていますが、社会教育とりわけ文化財保護の角度からみていくとどのようなことが考えられるのでしょうか。「地域の歴史さがしの旅」であり、「祖先の生きた証し探索の旅」とでも言えるかも知れません。

わたしたちが進めている文化財保護の仕事が、市民の皆様にとって地域を見つめ直し、地域を理解する一助となれば幸いです。

また、過去を振り返るだけでなく、将来に向けて新しい情報を発信し、魅力ある地域づくりに貢献したいと願っています。

平成11年９月

文化財保護課長　石川　克博

平成10年度
前橋市文化財調査委員
近藤　義雄
丸山　知良
松島　榮治
阿久津宗二
梅澤　重昭
前橋市臨時文化財調査委員
安盛　博

平成10年度
文化財保護課職員
文化財保護課長　川合　功
課長補佐兼文化財保護係長　高橋　賢靖
埋蔵文化財係長　井野　誠一
主　査　丸山　正家
〃　山口　宗男
〃　唐澤　保之
〃　大澤　雅之
〃　横山　浩之
主　任　眞塩　欣一
〃　梅山　雅夫
〃　坂口　好孝
〃　古屋　秀登
〃　林　信也
〃　平野　岳志
〃　齊木　一敬
〃　飯田　祐二
主　事　吉田　聖二
〃　佐藤　則和
〃　高山　剛
〃　宮内　毅
〃　眞塩　明男
発掘・文化財担当（嘱託）　井上　唯雄
嘱　託　員　安立　聡
〃　福田　貴之

平成10年度文化財調査報告書第29集

平成11年９月23日印刷
平成11年９月30日発行
発　行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市上泉町664－４
印　刷　上毎印刷工業株式会社

表紙　竪穴式住居建設体験学習の様子